

四
五

今古

公羽

草

二



中村文屋



今古奇流新草卷之二

死後乃忠節



若使あの一城を松並屋の家の中に諸尊主馬にて信
 綱術ふるふはひり一城をめて六百石の給り一城中
 の所難をぬし性質廉直してかまふ人もはるる
 ことを極ひ唯の善和漢の善書に眼をりし城を陣
 立のすまふ心を凝すの介少く儒典ふりたるのにて
 他の好意を介す又曰く家布小村田清六と云ふは
 其信あま人の言はれし忠と奉ふの小人をれも
 細り音曲礼奉と好むは鼓は妙とては守一人と

公羽草

二二二

わろ程の名譽をたう若殿の晴也あて世無と好
 武乃と跡ありし忠意の心を忠と奉ふの小人をれも
 其も信あま人の言はれし忠と奉ふの小人をれも
 信あま人の言はれし忠と奉ふの小人をれも
 かくては忠と奉ふの小人をれも
 若殿の信義一かんふはれし忠と奉ふの小人をれも
 忠と奉ふの小人をれも
 ては忠と奉ふの小人をれも
 をまぎけりし忠と奉ふの小人をれも
 主馬法士を扱ひて忠と奉ふの小人をれも

盛久とてとて流るるよ彼ハ平家源氏の士とて元源金之
捕らえて小斬えりと親書を二んよ念ぞ懐みりて
命と助を頼れよ拜とらまは源家と祝せし留守と
源家ととも忠亮氣清あけ身をかりて懸言と被せ
んとするた常にかく我命を助るが妹友とて主君
の然詠る源氏を祝せし源家から事ぞも懐み武
道忠義を志せりたるゆゑとすしりり祝てまき
其文武をまよひ外地の在養雜伎ハ知どたあかん
必極意ハおびしよまらふ時たのまると何んぞ流り
るふ村田清も聴危の中にあつて是とて元源平生

公羽草

我君敵の冤罪と受ると成む事交わると察せし小
遠ぞ盛久よよとせ法士の中は我極意と祝り
辱とわすしとんとまらふ大お怒りしと追付は極と
あし知せんよ承悲沢わらうふ程かく大敵は源家
わつてよ敵家勢を潰せりしてさういふと極意し
長ド強奪自ふとれどく成多を忠を其方とと難
そる強奪た入一通の法手とせりる不用いさらぬ
かへは証の外は怒りの意通ふ人々せりしとと
厚此法をこども悪むハ時君ハ智い成りしとと
法仍跡の都(すま)將軍家よりいつらつて智れを

清を多るん中がうと云る人ハ眉をちりめ合る
主馬も連判の月成さる清六ハ便をひらりと膝ひ
潜不殿(中)と云る主馬こが家北武蔵より外風流乃
伎藝をいふより正傍遊くるもさきより事もか
ひ用ひうすを懐くのわらう物弁かとも殿様と押ゆ
まんともでもかた事と清安も長が政務を忘れ
まやも立書書の清清もよせ法士ともいふ清
若も中やさんと清安はよりは安らるると海書も
彼がけひゆりこが五かた氏敵も雪君の主君
をうらまかろ懐乃と全ハ偽共の者めてゆくもぐ

測と云あて清くもさることう五好のゆるさふは
怒りもそ何の口管もかき重ふまらひ退散とさ
ういひ出さるる主馬ハ心ひあがる清安はわらう懐乃
るれ身不細うと清清代位判一屋安と難さうの
取極も公軽く書いと折て都(中)坐り町宅と備て
細樹と掃帚又ハ軍書の清安とと世渡の掃帚一
柳々お懐かるとは善くも清安はあハ殿の西堂に
くお身不昇進一政殿殿の口用とゆり上京一もさよ
持場よまらる大勢の佐田りあぐくもあハ掃帚てり
不不虫桑乃拾のきりあぐくもさよさよ不約今ハ

を箱の月より教を足合を道にまゝにゆくと思し
思ふあまう虎乃威をうる物成すのあつるを胸に
まてはかたきとせけるを清六が身小入は怒りまの
事と清り被小入は浪人ともいふが昔ふかぬ
悪口もあかぬ夜に潜小殺言して我怒るといふを
治より人を育て着衣を刀をせつまるといふ事
は有けきき小入會は彼は河州の事人をも刀細めて
空ももよみ守邊を伺く潜小殺し事さば
は重しは重しと一人宛ててつるあり
おとあつる主馬はまじ日中間の二年といふ一人



五つと知れぬのてか後と縁一なるふ清六が二人のあは
 しのとやうに主馬が家とやうに久遠は縁は縁は縁は縁は
 透間あつたを移しひらき縁のあつたる所を縁は縁は
 身をわくし流地は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は
 かく来ぬる物極へ移しひらき縁は縁は縁は縁は縁は縁は
 縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は
 三まあは縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は縁は
 下宿をうりお糸とちり若うしてまゐるが縁は縁は縁は
 困窮の中お水の芳と厭つて昔ふち守り守り守り守り
 はお勤をまゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり

ちひく死しはひるわけて三年さんねんは想おもへて蘇おこすやう候ま
 かなふ事ことは移うつり候まかまは女に房ぼうはひひりやううられし
 後ご石いしも小こ位ゐ候まうばまもつた移うつり候まとて今年ことし
 十二じふに五ご必かならずまはるま陰かげ削くる性せい質しつめまはるま候ま
 人ひと之の平へいに何なにひ文ぶんを殺ころすま何なにもあらず性せい名なひつ
 二ふた面めん作つくらるま中なか同おなよ平へい詔みことは旅よんど人ひと小こあらず
 先達さきだちて主ま君きみを流ながすま乃すなはち村むら田でん清きよ六むつ迷まよふ候まと
 て父ちちの君きみ魂たまとまふ人ひと能あたらまは先まを知しるま乃すなはち一刻いも
 なく彼か小こ葉は有あり候まを流ながすま乃すなはち東あづ馬ま内うちて刀やいばを
 らんといふ候まつを志ま死し候まと取とり候まるま乃すなはち主ま馬まが死し候ま

翁草

血ちを流ながすま清きよの梅うめ小こら松まつのあふあふま香かを
 子こ人ひと意いいざさより追お付つんと梅うめ十じふ帝ていに鑽くわ帷ゐ子こをま
 津つ春はるつと後ご重おも代しろの目めと物ものとせけい出いんとを母はは
 親おやあしあ早はや速すみ詔みことが知しるまと初はつ年ねん此こゝ梅うめ十じふ帝てい詔みこと
 と我われ不ふ細こ末すえ熟じやくの小こ腕うでをり付つはわらんも斗たうがと
 今いま世よ内うちを待まちて詔みことを付つべしと涙なみだをなめり候ま
 三年さんねんに世よに人ひとも彼か玉たま人ひとゆは吾われ易やす付つがし今いま
 翁おきなゆひとみちる梅うめ十じふ帝てい詔みこと入いれ候まをなめり候ま
 り候ましまも定さだむまひまるま梅うめ十じふ帝てい詔みこと切きて花はなが
 ごとく小こちりける清きよ六むつ梅うめもふらんとは疾はやに休やすみ

よ高し主なる討ひ小つる世に二人が歩居いりと主を
りく侍流たる西二人の者立かては標いり首を
せ始終とせりく侍まばいりと主を物くと
敵をそとせりく侍まばいりと主を物くと
とてなく悪口で種ひ今こそあひあつてと捕はし
ま侍首の前より信川へ流しけるが如くて三平は槍を
帯とけひはるふもあらずあらずの如くをたか
はく侍流とつとて強し重ると三平若とせり
りりり押せりき團の回してあつける小侍を
もき侍六が師の問は主馬と討はしり二人

の美意あひ痛むる槍をひわく今日主を
害する恨と執る也とあつたが如く侍流と
三平肩先より大なる伐倒し一人は槍をさす小
しとてあつてゆえとあつて殺るはあつた
それ侍六の槍をの刀をひてまかひあつたが如く
籍よりぞあつた満當主馬が二子同苗槍十布
家来三平とあつた斬るを侍流は好く殺
うら侍六槍をさす小侍の弱りたるすとあつた
あつてあつた刀をさす侍流とあつた三平は
右の旗と切落とあつた侍流は倒れたるよは槍

十神意のうゝ父の恨定し申云はく爲をうそら
爲し袖紙らうそく押つて常すんでおふ立を
む母親の若返討よ命やせんといふておらるるれ
む養う現しく世に申あさうおつておらるるを食
こまかた着の傷ふらたまを療養すまへて平歩
まはせしとて曰ふと今日主人と仰ぐ歌のあふ討
くはまゝ申うてい程十日友よははつて面仰と
つらむとておは初逢りて誰か刀して討てま
らせんや何事かきくま君の無と暗さんと申ひ
一念未は世とら守能く詔と討りせたまへとも

妻逢ふゆりはうあそと申云はく身ふらう海
たらゆら海共なり母子の奇異のあひたり思
凝り亡泥の胸を刀して詔を討りて女今何れ
後とて感嘆して死體と取立てまゝとて後小
礼をぬれひ詔念はまひとらうとけり

山中乃妖獣

おれを洋多の地をゆく小東何處の山嶺子大角
屋と申す方より小性賢勇極いて力量し人
馬よは達し之を大石を好むい碎中よはは
くくを智を申す申す申す申す申す申す申す

黒屋を渡りし江男小家留儀有けは父角屋母ハ
清く憤りし是以終宣け守我儘をの振舞之ハ一家
中わがごとく老長女多津儀の八重山のきりけり山
清殿とのふ押込をけきと大角反ハ林まきの中を
はまぐと懸るは穢ま如ハおと幽習一友をほへ林
幽言を擲り回すは小弓多鏡ハは終るは妙もなりきば
おまふとい多くは獲あつける奥方ハ清く此方とかせし
は更遷らせりふゆり懐妊して程々玉のどれを殿を
懐をなかりしふ名穢と大角反も懐る父子の懸やそそ
懐るはくく〜掌中此をわがづさるひ月日此ふ

之羽草

十四

ち〜ひ〜増をわ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
人抱きその門前の山崎ふきりける乳と取く〜〜〜
〜〜〜抑も懐る林を大角反尋らりけり穢を
移し二玉とこり〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
乳の人をひけなく大よむる〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
た〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
穢びぬ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
目〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
流連の海人〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

付家物として清殿へ入り救急の正典茶集して括体を
 傾て子身まきまき針茶及びくこ中とけきバ園旁の
 正新き六文からしりも到氣の大南屋も焼中雄子
 勢乃踏五風かまきまゆりゆきゆきとひぢぢりした
 まう不強暴のあまう救人を正討め又後編を好
 浪るれ救生とまき園果のまきも包外てかる憂に
 あまからんと驚よおおと怖うはを付くまああ君れは佐
 又倅う一青八日次あまうれ敵の正氣集るまじり
 か系飛科也あまうまきと案下流らにさひのかま
 少信もま只の書佛子化るをのまきあひまきよ



又攝少也（ア）あつたは一向（イ）は教生（ウ）とぞまう（エ）ころりかたせし（オ）が
 ののはよろはは清教（カ）又仕ゆる男女（キ）衣帯（ク）に似束（ケ）志（コ）を
 失ふ（カ）あつた抗裡（キ）の（ク）志（コ）成（ケ）ぐと（コ）おと（ク）る（コ）寐（ケ）の（コ）人（コ）急（コ）
 了（カ）解（キ）を（ク）配（ケ）つて（コ）用（コ）心（コ）す（コ）道（コ）在（コ）眼（コ）又（コ）さ（コ）さ（コ）る（コ）怪（コ）死（コ）と
 かなし人の失（カ）る（キ）へ初（ク）ふ（ケ）る（コ）は（コ）忍（コ）牙（コ）小（コ）教（コ）人（コ）の（コ）束（コ）志（コ）す（コ）必
 々（カ）と（キ）だ（ク）法（ケ）士（コ）津（コ）定（コ）子（コ）更（コ）と（コ）は（コ）ま（コ）ぐ（コ）た（コ）あ（コ）つ（コ）乃（コ）道（コ）と（コ）こ
 更（カ）は何（キ）乃（ク）あ（ケ）る（コ）子（コ）と（コ）毎（コ）る（コ）形（コ）清（コ）善（コ）提（コ）所（コ）の（コ）高（コ）鏡（コ）
 嶽（カ）山（キ）和（ク）尚（ケ）と（コ）中（コ）へ（コ）南（コ）内（コ）智（コ）德（コ）稀（コ）なる（コ）信（コ）と（コ）諸（コ）人（コ）る（コ）
 教（カ）し（キ）る（ク）が（ケ）大（コ）南（コ）及（コ）る（コ）名（コ）君（コ）か（コ）と（コ）さ（コ）せ（コ）る（コ）後（コ）ハ（コ）折（コ）く
 清（カ）教（キ）（招（ク）清（ケ）あ（コ）つて（コ）始（コ）く（コ）海（コ）法（コ）し（コ）ま（コ）ひ（コ）に（コ）教（コ）自（コ）か（コ）る

怪愛するありと云ふは和尙おぼざりてなれば和尙
もその小怪と申すも六懸魅因西の西庵おやひん
道と云ふと申すは授る所の妖魔に付するふは
奇妙の呪文のまじりて法殿は遠角一掃子と何ひ
らんと申すは是れも大角庵もは怪び申す教日蓮も
円和尙も毎夜おぼはして何れに或れうしと
云ふは枕のほろりの極側と云ふくとあはし思ふ有
きもて又て戸の邊より申面と云ふは雲霧
ありて女人今斬らるる人ゆへ人のそとふ持底は
より流る血は吸さるるを静は奥女房へは

これに極は是れおぼはると聖日大角庵太の法衣と
申すは怪婦人と申すは奥女中申すは女と云ふ
及十を授ては怪の難は除くは穢小事と云
一と西月の女中をたれ一見はんと有るをを同ド
おひしたの女より法衣に和尙のあはれお十念と法衣
申すは救人の女中をらりくたれ申すは夕アアア女小
似る者ありやれり今ハ奥女房一人有るは又
十を授ては敵の信よめて法衣をよする奥女
房と云ふは是れは女中一人有るは又
しくお顔と何は妖怪の記したるお遠るは

大角反り夢小か〜中よま〜大は怪〜あひ年尔は
いあ〜〜〜と様子を伺ひ妖怪小様〜討り〜
よ〜ま〜夜に顔小入〜せま〜い酒宴と〜ま〜れ
ゆ女の申を〜するもあ〜又あ〜り〜神の舞も
あ〜て〜れ〜い奥を偏け〜度中と様様〜小大と〜
〜の〜奥方小〜て救難と〜あ〜い〜お〜れ〜小宮を
〜ま〜て〜ま〜母同〜く〜藤原に〜大角反りも〜ま〜好〜て〜熟睡
乃体小り〜り〜様子を伺ひ〜り〜せ〜小奥の〜洗研〜
〜く〜解〜り〜藤原〜せ〜ま〜ま〜は〜い〜身〜に〜苦痛の〜状
〜して〜ま〜あ〜れ〜鬼女の〜面〜と〜見〜る〜〜小〜ま〜六〜柄〜を〜妖怪

の〜小〜遠〜い〜り〜操〜せ〜んと〜示〜様〜う〜た〜右の〜腕と〜操〜曲〜を
志〜ま〜を〜奥方〜眼〜を〜ゆ〜記〜起〜う〜今〜す〜ま〜大〜力〜に〜あ〜え〜れ
て〜働〜く〜り〜と〜ゆ〜ぞ〜竹の〜飛〜を〜そ〜か〜〜り〜と〜も〜小〜志〜あ〜ふ
中〜の〜ま〜い〜け〜〜と〜白〜眼〜己〜妖怪〜ま〜い〜ら〜合〜ん〜と〜奥〜容
小〜妻〜一〜救〜人〜の〜あ〜ま〜い〜あ〜れ〜〜奇〜怪〜う〜ま〜く〜心〜体
を〜病〜せ〜よ〜との〜ま〜れ〜自〜ら〜様〜る〜あ〜中〜の〜の〜ま〜て〜は〜り〜
〜あ〜〜〜〜ま〜ま〜あ〜く〜〜と〜あ〜〜せ〜ま〜く〜あ〜ま〜か〜り〜く〜と〜あ
〜あ〜い〜碎〜中〜に〜ま〜ま〜の〜容〜あ〜つ〜ま〜と〜知〜ぞ〜様〜と〜ま〜を〜船
〜ん〜と〜様〜ら〜あ〜る〜繩〜を〜持〜〜り〜〜ら〜ら〜い〜〜と〜強〜く〜さ〜え
〜ま〜で〜妖怪〜と〜ま〜ま〜と〜や〜い〜ん〜忽〜大〜う〜り〜と〜ゆ〜さ〜

打撃なりと喰ひ付けり力此なるも此處にて大角
石と切付く挿え之喰付んと死かえをたのもせざる
く挿えの力を振返り切折ひ多をたの問うて切ひ
りけと此生を逃る事多しと敵の太刀法師は
又澹長刀と持てあまると云かあらば此生は此下と
潜り支る者小喰ひ付投例に對して怒り程程死勢
は偏易し各引合ふ事なくする要職山和尚云ふ神中
小作としこ呪文を習く事多し此生は天地を驚か
す事一声を叫んでさうと偽色休多ふと強士走
きてさんく不切敷くさる死形にまはる人件せてや

公頼

も憂さされを咄けり奥方ハ生るる鬼女と
ぬきりやさんと云ひさる小職山和尚の曰彼は死す
と云ふ事多し此生は死す事多しと云ふ事多し
件と死す事多し此生は死す事多しと云ふ事多し
一劫と稱する事多し此生は死す事多しと云ふ事多し
くして願ふ事多し此生は死す事多しと云ふ事多し
根柢をたんとく白くまはる長さも生てたささ
たりの事多し此生は死す事多しと云ふ事多し
り経書とて老儒博識なる事多し和漢古今の

書（つひ）に（い）ま（ご）か（ら）る（形）の（獸）を（の）す（る）ま（り）と（や）る（を）て
も（い）つ（り）兒（ハ）奥（方）始（彼）が（領）食（と）る（セ）一（男）女（十）余
人（の）骸（骨）ハ（累）く（と）幼（屋）の（床）下（に）擡（あり）と
る（ん）大（角）及（小）武（運）目（如）及（統）の（飛）も（不）日（は）平（金）
あ（ら）ま（さ）た（妻）子（は）込（こ）と（と）ぐ（ら）權（能）も（出）して（世）の（中）
あ（ら）れ（り）と（と）て（忽）は（心）と（割）誓（と）は（し）ひ（鐵）心（和）高
ま（は）ひ（怪）乃（後）内（あ）う（と）る（し）す（信）と（ま）下（記）と
ら（し）

今古奇味存草書二終